

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 29日から30日は、日本付近は冬型の気圧配置が強まる。
- 31日は、高気圧が日本の南へ移動して、冬型の気圧配置は緩む。低気圧が東シナ海へ進む。
- 2月1日は、気圧の谷が日本海から北日本付近へ進む。低気圧が日本の南へ進む。
- 2日は、気圧の谷が日本の東へ進み、日本付近は冬型の気圧配置となる。

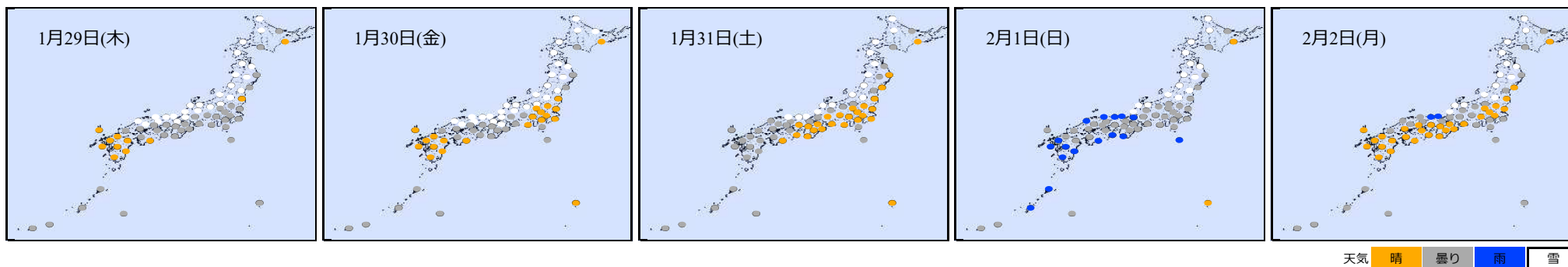
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 29日から30日は、強い寒気が南下するため北日本から西日本にかけての日本海側を中心に大雪となるおそれがあり、寒気の程度によっては警報級の大雪となる可能性がある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

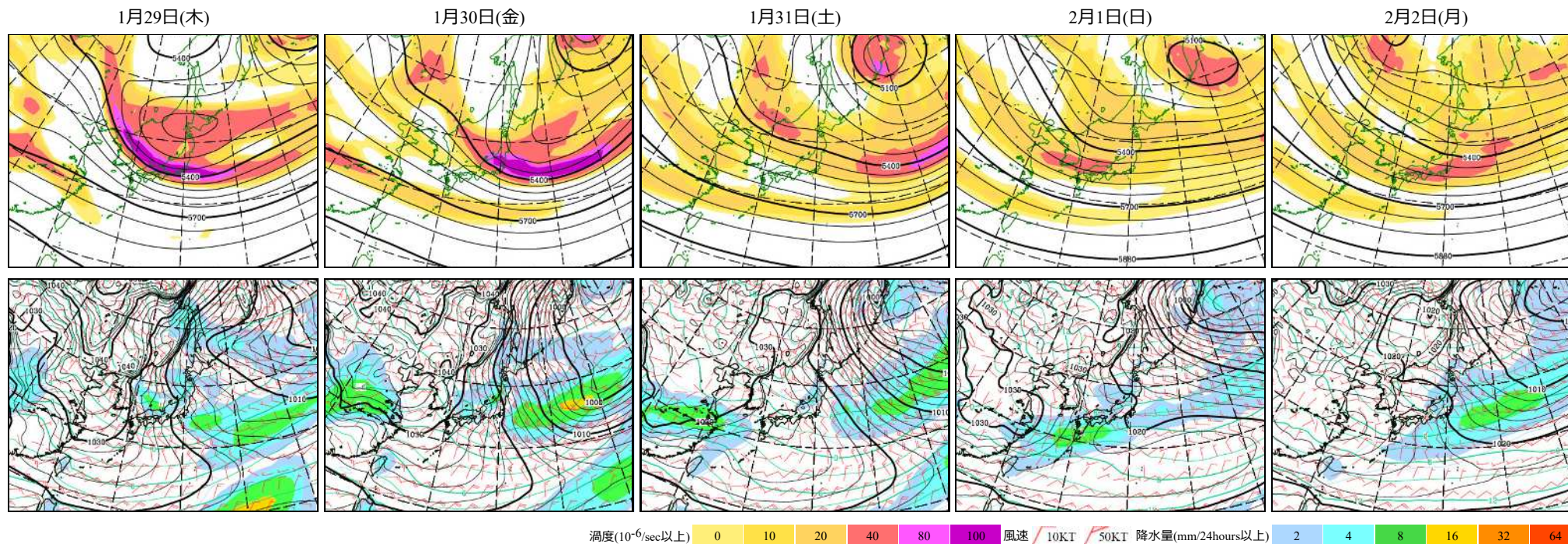
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

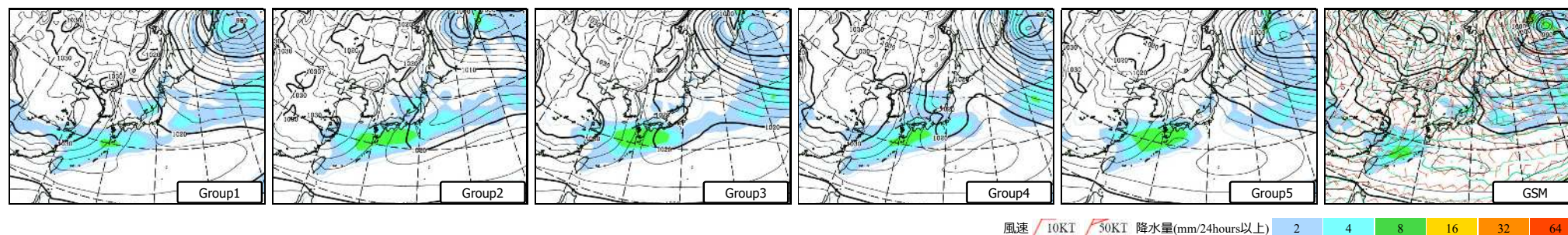


- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、曇りや雪または雨の降る日が多い。
- 東日本から西日本にかけての太平洋側は、晴れや曇りの日が多いが、2月1日は雨または雪の降る所がある。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすく、2月1日は雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆2月1日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料 (ENS) は、29日頃は日本付近のトラフが深くなり、冬型の気圧配置が強まったため、日本海側の降水確率が大きくなった。
- 各モデルとも、29日から30日は冬型の気圧配置が強まる予想はおおむね揃っている。
- スプレッドは、期間の終わりはやや大きくなり、5400mの特定高度線のばらつきが大きい。2月1日の日本の南の低気圧に関する各メンバーの予想は、昨日資料よりは減ったものの、1割程度のメンバーは本州南岸を発達しながら進む予想をしている。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。